

研究授業 総合的な学習の時間

凜々子大作戦！「～三代目凜々子を広げよう（栽培編）～」

5月17日（水）5校時は、第1回目の海中校区21の研究授業を海田東小学校の5年3組で行いました。海田東小学校の第5学年の総合的な学習の時間は、平成27年度から凜々子（トマト）の栽培活動を通して、探究的な学習を行っています。初年度は、児童も教師も初めての凜々子の栽培では、試行錯誤の繰り返しの中、18kgを収穫しました。そして、何度も話し合いを重ねて、全校児童に小さじ1杯だけでもケチャップを味わってもらった活動を行いました。昨年度は、先輩たちの活動を引き継ぎ、1年目の栽培の課題を基に、苗から作戦を立てて栽培活動を行いました。その結果、46kgを収穫しました。昨年度までは収穫した凜々子を加工するところまでを1単元として、「課題発見・解決学習」の1サイクルで行っていました。しかし、学びのドリームプランの検討を行う中で、栽培活動をしっかり行うことを大切にしていきたいという学年の指導者たちの思いにより、今年度は、「栽培編」「加工品づくり」「次の学年へつなぐ」という小単元で構成することになりました。

本時は、「栽培編」の課題の設定の時間に当たりました。三代目である凜々子の栽培では、「何のために『三代目凜々子大作戦！』に取り組むのか」という目的意識と相手意識をはっきりとさせることをねらい研究授業の時間に挑みました。

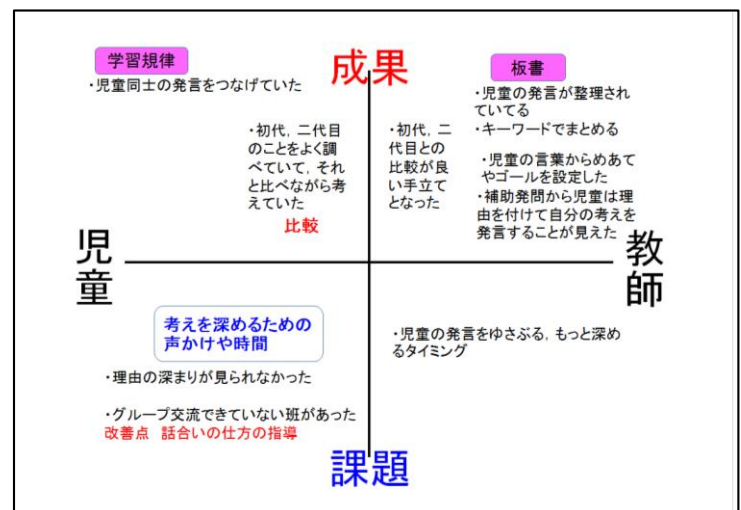
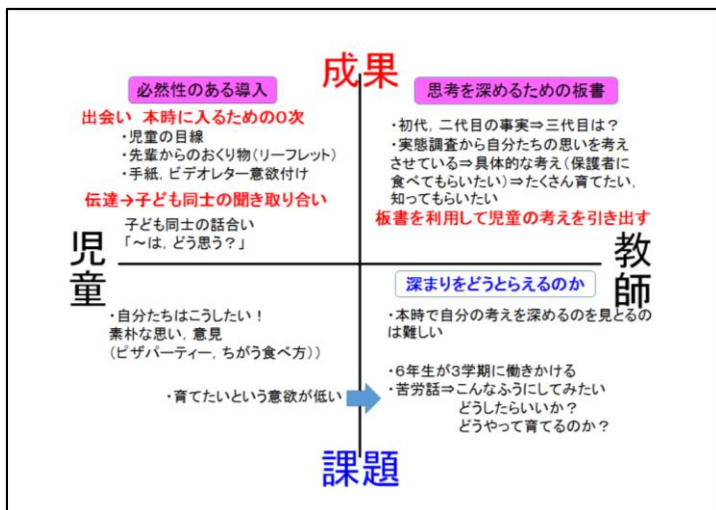
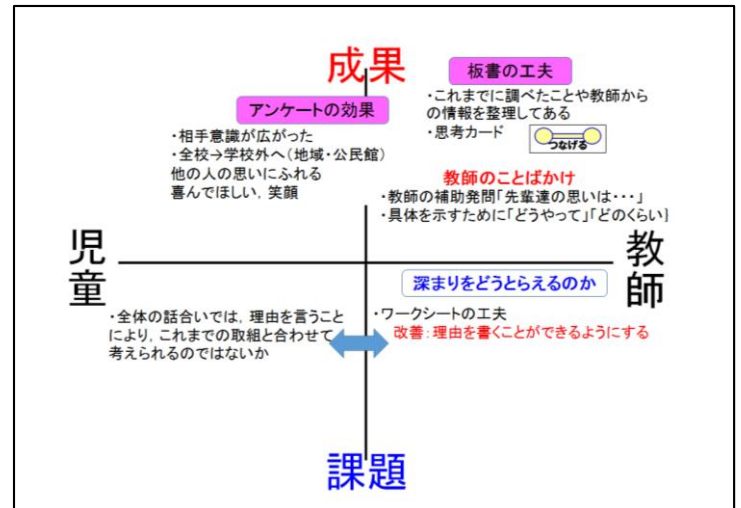
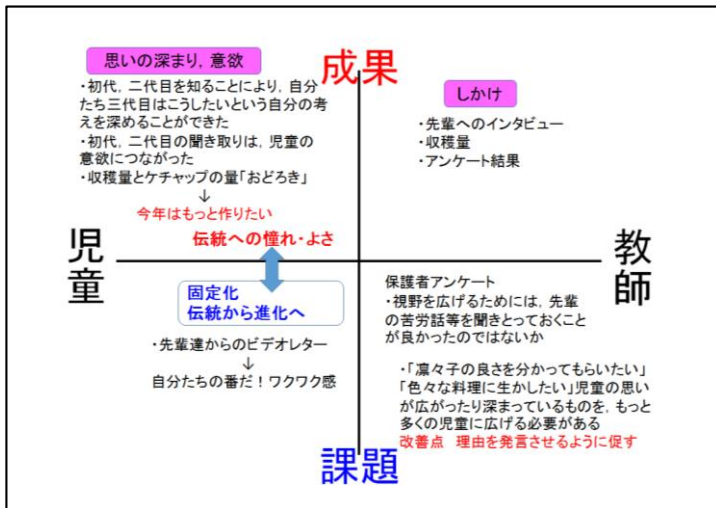
2年間の凜々子の学習を事前に児童たちは自主的に聞き取りを行っていました。初代、二代目の板書に整理された情報を基に、児童たちは三代目凜々子の活動をどうしていきたいか考えるための材料になりました。そして、「何のために凜々子の学習をしたいか」考えること

を通して、保護者や地域の方などに試食をしてもらいたい、誰かを喜ばせたい、などの相手意識や目的意識をもち始めた児童たちでした。多くの児童の意見を交流させたいと思うばかりに、一人一人の児童の考えを深めることが少しできなかったところが、課題として残りました。また、グループ交流の在り方、全体交流の場での児童のかかわり合い発言などは、今後も学び合いの土台として継続して学級指導を行う必要があると思います。



児童の思考の深まりを見取ることができにくかったことも、今回の課題として挙げられました。授業のまとめとして、凜々子に対する思いを理由を交えながらワークシートに記入することにより、児童の思考の深まりを見取ることができたと考えられます。児童の思考の深まりは、発言や記述により見取ることになるので、ICTも効果的に活用しながら、協議を行っていきたいと思います。

【協議会】



【指導助言】 広島県西部教育事務所 神崎 隆之 指導主事

- ・「学びのドリムプラン」により、他教科等の関連が明確かつ具体的に示されていることにより、各教科で深い学びにつながっている。また、振り返りの時間を設定することにより、思考力のさらなる育成や次時の学習意欲につながる。
- ・探究のプロセスを通して、一人一人の力の向上に努めることが大切である。今後、さらに研修の充実をはかり、学びの変革を広げてほしい。

